

北海道下水道災害復旧支援チーム1

(1) 支援先自治体及び状況

支援先自治体: 岩手県久慈市

状 況:

死者 2 名、行方不明者 2 名、国家石油備蓄基地が大破、港のある地区に大きな被害が見られるが、市役所のある本町地区にはほとんど被害が見られない。5 箇所ある漁集のうち 1 箇所が壊滅的に被災している。

(2) 支援人数

旭川市、江別市各 3 名、函館市、小樽市、室蘭市、石狩市、北海道各 2 名

計 16 名 全て土木職

(3) 支援期間

出発 平成 23 年 3 月 23 日

支援期間 平成 23 年 3 月 24 日から 3 月 30 日まで 7 日間

到着 平成 23 年 3 月 31 日

(4) 下水道管渠の状況

地震の揺れによる大きな被害はみとめられない。(小さな目地剥離などが数ヶ所あった)

(5) 一次調査の活動状況

- ① 地表から目視により全マンホールの異常の有無を確認

- ② 会合点、河川横断、JR 横断箇所など重要箇所を調査必須箇所とし、その他を含めおおむね 5 箇所に 1 箇所を目安にマンホールを開け内部の異常を確認する。
- ③ 滞水などがみとめられた場合、その事象がなくなるところまで連続でマンホールを開け異常の確認をする。

調査結果

- ・地表からの目視ではマンホールの異常はみとめられない。
- ・北海道班の調査対象区域にある2, 905箇所のマンホールのうちおおむね5箇所に1箇所にあたる579箇所のマンホールを開け、マンホール内部の異常を確認した結果、21箇所のマンホールに異常がみとめられた。
- ・異常マンホールの内訳は
土砂堆積5箇所、侵入水1箇所、滞水11箇所、異物1箇所、目地剥離3箇所
- ・なお、これらの箇所は、その後久慈市が再度現地確認し、維持管理の範疇と判断した模様。
- ・異常マンホールに計上していないが、維持管理(メンテナンス)が必要と思われる箇所もあった。

調査状況



久慈市役所前で



提出成果品を前に全員で



(6) 支援活動を通しての感想

津波の影響のある区域を名古屋市隊が、影響のなかった区域を北海道隊が担当した。

久慈市内の港のある地区や隣村である野田村の壊滅的な状況を見ると、津波の恐ろしさがわかるが、北海道隊が担当した区域においては、幸いにも揺れによる大きな被害が見られなかった。

マンホール蓋の鍵穴にはめ込まれているゴム製のパッキンの取り外しには非常に苦慮し調査の妨げとなった。今後の維持管理も考えると、このパッキンをこのままつけておく必然性はあまり感じられない。